ヴェトナム新時代
―「豊かさ」への模索

岩波新書　著者：坪井善明

１８０７８１１７０

浅川昂輝

第一章　戦争の傷跡

●ベトナム戦争が1975年に終戦

●枯葉剤による被害

なぜ枯葉剤を撒いたのか？？

ベトちゃん・ドクちゃん

→上半身は二つ、下半身は一つ

●奇形児の出生や地雷による被害

第二章　もう一つの「社会主義市場経済」

●1986年に「ドイモイ」を採用

→計画経済から市場経済へ

問題点

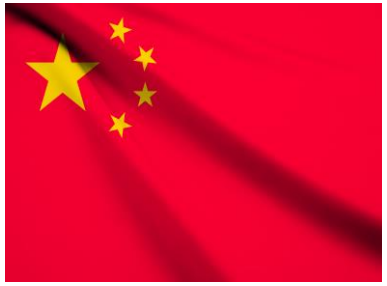
①物を流通するためのインフラ整備

②買い溜めによるインフレ発生

→価格統一、貯蓄の奨励によるインフレ沈静化

③産業の遅れにおける人材不足

第三章　国際社会への復帰



●米国からの復讐

①中国と米国の共謀による中越戦争の勃発

②数十年に及ぶ経済制裁

●冷戦終結後、米国との関係修復へ

→国際社会での米国の比重が高まってきた

●ベトナムの譲歩によって国交正常化後

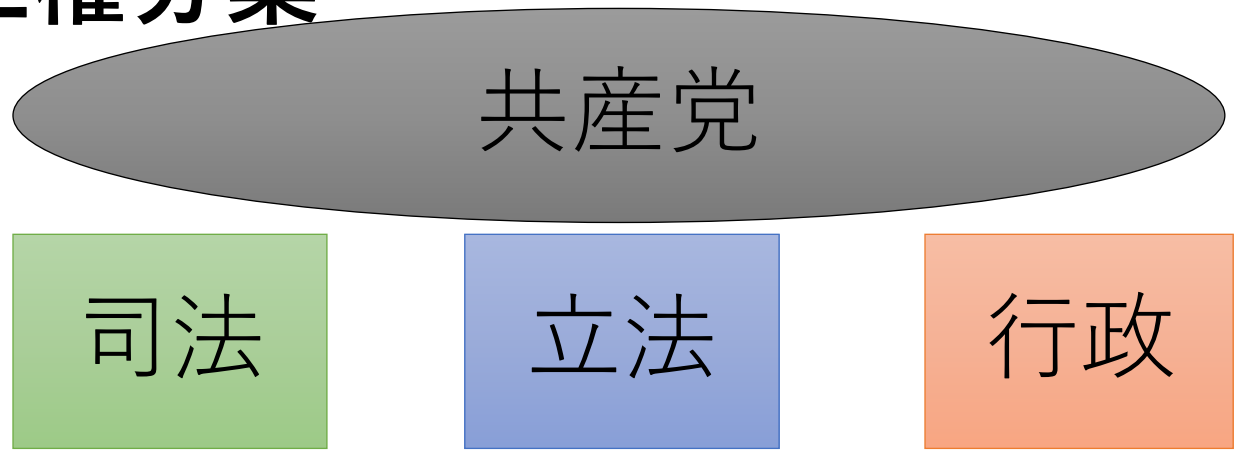
→経済制裁緩和、ASEAN加盟

第四章　共産党一党支配の実相

●プラグマティックな態度をとる政党

①現実主義　②安全を図る点　③理念が欠落

●三権分業



→汚職、腐敗が問題となっている

☆複数政党制を導入するなど監視が必要

第五章　格差の拡大

●ホーチミン市

外国企業進出による雇用の拡大

デパートや高級ホテルが立ち並び発展

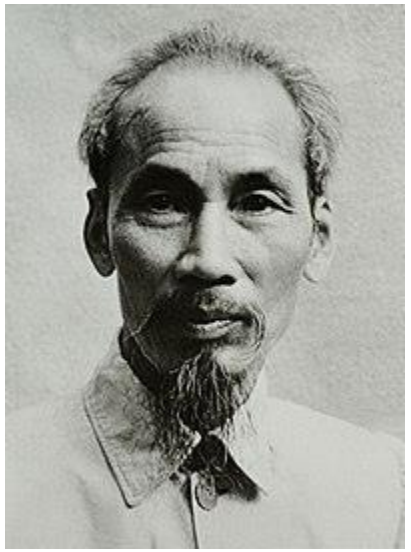
●中部、北部の農村地区

飢餓線上すれすれの生活

→資本主義の影響で貧富の差が拡大

●二月暴動の発生

第六章　ホーチミン再考



●ホーチミンって誰？？

当時フランスの植民地だったベトナムを
1945年に独立させた指導者

●八月革命

第二次世界大戦中に起きた革命
→革命に成功し「ベトナム民主共和国」は独立

第七章　これからの日越関係をさぐる

●ODAによる日本からの支援の問題点

①時間とお金がかかる

②情報社会に対応した教育

●外向的な支援が必要

①日本の外国人労働者の受け入れ体制

②海外での現地指導

終章　新しい枠組みを

●共産党の一党支配による未来

→ホーチミンの思想のもと民主化へ

●工業化への道

→情報社会に適応する人材の育成

●「平和と反戦」の価値を世界へ

→共和国という新たな在り方を訴えかける